

## “狭心症や心筋梗塞などの冠動脈疾患”

心臓の動脈のことを冠動脈と言い、この冠状動脈の病気を冠動脈疾患と呼びます。

狭心症と心筋梗塞が代表的な疾患です。冠動脈の血流が一時的に足りなくなって胸痛をきたす病気が狭心症、冠動脈が閉塞して血流が遮断され、心臓の筋肉が死んでしまうのが心筋梗塞です。どちらも冠動脈の動脈硬化が原因です。狭心症の場合は動脈硬化により冠動脈に砂時計のような狭い部分ができしまい、運動などで心臓に負担がかかった際にそれに合う血液が流れないため血液が足りなくなって胸痛が出現します。安静にして心臓の負担がなくなると胸痛も改善します。

心筋梗塞の場合は、動脈硬化により冠動脈の内腔に亀裂が生じ、そこに血栓ができて血管を閉塞してしまうのが原因で、血液の足りなくなった部分の心臓の筋肉が完全に死んでしまいか、治療により血流が再開するまで胸痛は改善しません。狭心症と心筋梗塞はどちらも冠動脈硬化症が原因ではありますが、その発生のしかたは異なっており、冠動脈の狭窄が進行して閉塞するわけではないということを理解することが重要です。冠動脈の狭い部分を広げても心筋梗塞を防ぐことにはならず、冠動脈に狭窄がないからと言って心筋梗塞になる危険がないとも言えません。従って、狭心症だからといって必ずしも冠動脈の狭い部分を広げる治療（ステント留置）が必要なわけではなく、最も重要なことはコレステロールの管理や禁煙などで動脈硬化の進行を防ぐことです。